

平成 30 年 5 月 20 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370832

研究課題名(和文) 昭和前期における在日イスラーム教徒の対日活動

研究課題名(英文) The activities against Japan by the foreign Muslims in Japan during the first half of Showa Era

研究代表者

三沢 伸生 (MISAWA, Nobuo)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：80328640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦前から戦中、諸状況が一変した戦後直後を含め、昭和前期の日本において、在日イスラーム教徒たちが、日本の政府・官界・軍部そして民間に対して関係を構築すべく講じてきた対日活動の実態を、国内外で記述史料を探索・関係者への聞き取り調査を行い、海外の研究協力者たちと分析した。

戦前期にはタタール系トルコ人の活動、反英独立活動を目指していたインド人やエジプト人が、日本への接近を試み、戦中期にはタタール系トルコ人と回教政策を推進する日本のアジア主義者たちが協働したものの、戦後に回教政策が放棄されると、タタール系トルコ人も海外に移住して、在日イスラーム教徒の活動が衰退した過程の実態を解明した。

研究成果の概要(英文)： This research was intended to research how the foreign Muslims tried to contact with the Japanese political, official, military leaders to build the strong relationship during the first half of Showa Era, including pre-war, wartime, and post-war periods. Depending on the written source materials and interviews of the related persons in Japan and abroad (Turkey, Central Asia, Russia, and so on), the details of the activities of the foreign Muslims in those days are analyzed.

In pre-war period, anti Russia Tatar Turkish Muslims, both anti UK Indian Muslims and Egyptian Muslims were tried to get any assistance for their political and religious actions. But in wartime, only Tatar Turkish Muslims continued to get the any assistance from the Japanese leaders of the Great Asianism Movements to reside in Japan. But soon after WWII, Tatar Turkish Muslims immigrated to Turkey and USA. In this way, the movements of the foreign Muslims in Japan were declined.

研究分野：東洋史

キーワード：イスラーム トルコ インド エジプト アジア主義 回教政策 満州 移民

1. 研究開始当初の背景

日本とイスラーム世界との関係・交流史は国内・国外において長らく看過されてきた研究課題である。明治維新以降に創始された日本によるイスラーム世界への接触は、やがて戦前・戦中期の「回教政策」の枠内に収束していき、戦後において全面的に否定されるに至った。このため現代の日本においてイスラーム世界との関係は戦後復興における石油輸入に始まるかのように認識されている。戦後において戦前・戦中期における「回教政策」立案・実施の詳細は学術的に精査されることなく封印されてしまったのである。一方、同じく近代のイスラーム世界では中核を担ったオスマン帝国が、内からは構成諸民族の独立運動と外からは英仏を中心とするヨーロッパ列強の進出とによる混乱のなかにあつて第一次世界大戦によって瓦解し、ヨーロッパ列強の植民地体制下に組み込まれた「中東諸国家体制」へと移行した時期にあたる。このため、イスラーム世界からは非ヨーロッパ列強への対抗手段として日本への接触を図られていた。しかし日本との関係が十分に構築される前に第2次世界大戦へと至り、戦後に独立を果たした新興の中東諸国家では、戦前のように日本との関係を構築する必要性も消失してしまった。この状況下に近現代における日本とイスラーム世界との関係は、国内・国外において長らく研究されることがなかったものの、ようやく近年その重要性が認識されて複数の研究が始動している。本研究もこうして研究背景のもとに創始された。

2. 研究の目的

戦前・戦中期さらには朝鮮戦争終結に至る昭和前期において、ソ連から日本および満洲・朝鮮半島に亡命・滞在していたイスラーム教徒であるタタール系トルコ人たちの活動は極めて重要である。タタール系トルコ人たちは宗教的・民族的に自分たちを弾圧するソ連に対抗するため支援勢力として日本に亡命・接近し、日本が標榜する大アジア主義に基づく「回教政策」の危険性を知りつつ、民族主義活動家・軍部・政治家・官僚たちの協力を取り付けるべく様々な対日活動を展開して接近を図った。同様にインド人・エジプト人というイギリス植民地下のイスラーム教徒たちも、反英活動の一方策として来日して様々な対日活動を展開してきた。戦後、日本の敗戦にともない大アジア主義が後退していくなかで、日本は「回教政策」を放棄し、独立を果たしたインド人・パキスタン人、エジプト人、さらに朝鮮戦争終結後にトルコまたはアメリカの国籍を取得したタタール系トルコ人たちは日本から出国していった。こうした歴史は忘却されていった。関係者が高齢になっている現在、日本やトルコ、エジプト、パキスタンなどにおいて聞き取り調査や日記・書簡・写真など基本史料が失われる前に、早急に探索・収集・

分析しながら、両者の交流史を解明していくことを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は昭和前期の日本における在日イスラーム教徒（主にタタール系トルコ人およびインド人、加えて一部エジプト人など）が、日本の官民と関係を構築すべく展開してきた対日活動にかかわる基本史料（記述史料・聞き取り史料）を、トルコ人研究者・ロシア人研究者など外国人研究者を海外の研究協力者として協働し、日本のみならずトルコ・ロシア・パキスタンなど世界的規模で探索・収集・分析していく。史料は、記述史料として第1に外国語史料（タタール系トルコ語、アラビア語など）在日イスラーム教徒の母語や英語）史料、第2に日本語史料の文献・私文書史料を対象とする。また現在において昭和前期の状況を知る関係者は数少なくなっていることから、聞き取り調査を進めて、文献・聞き取りに基づき、戦前・戦中・戦後直後という昭和前期の日本における在日イスラーム教徒が展開してきた対日活動について解明していく。

4. 研究成果

(1) 平成 26 年度

昭和前期の日本における在日イスラーム教徒（主にタタール系トルコ人およびインド人やエジプト人など）が、日本の官民と関係を構築すべく展開してきた対日活動にかかわる基本史料（記述史料・聞き取り史料）を、日本および外国人研究者を共同研究者として迎えながら、世界規模で探索・収集・分析していくこととし、本年度はまず日本とトルコで実施した。

トルコにおいては戦後に日本からトルコへ移住したタタール系トルコ人の私文書史料（家族写真・書簡・書付類）を多数発見・入手し、関係者から聞き取り調査も行って、海外における研究協力者であるアンカラ大学の Ali Merthan DUNDAR 教授と分析とデータベース構築の基盤を確立したことが最大の成果であった。日本においては戦前・戦中期に活躍した大久保幸次（駒澤大学教授）の私文書史料（手書き原稿・写真）および新聞・雑誌記事を収取し、同様に分析とデータベース構築を行った。

(2) 平成 27 年度

ロシアのタタールスタン共和国・トルコ・ギリシアで開催された学会において、口頭発表により初年度の研究成果を公表するとともに史資料の探索、海外の研究者との協働による分析を行った。

在日タタール人の出身地たるタタールスタン共和国では、本研究の海外研究協力者であるアンカラ大学の Ali Merthan DUNDAR 教授らと共にカザン大学で学会発表を行い、同国のアカデミーと今後の共同史料探索・調査

活動推進に合意し、同国に所蔵される Ayaz Ishaki らが日タタル人関連史料を入手した。トルコでは学会発表しつつ、初年度に続き、タタル系トルコ人関連史料を多数発掘・入手することができた。ギリシャでは学会発表をし、ギリシャ人研究者との共同研究関係を構築した。一方、日本では京都大学がパキスタンから入手したアキール文庫庫内に所蔵される、戦前期日本で反英活動を展開したバラカトゥッラー (Barakatullah) 関係史料を探索・分析して日本での活動の一端を解明した。国内外で収集した史料は分析と共にデータベース化を進め、ホームページに公開した。

(3)平成 28 年度

当初は最終年度として研究の完成を目指したものの、調査・研究の根幹としているトルコにおいて予期せぬ諸テロ事件及び7月のクーデタ未遂により、政情・社会が不安定に陥った。秋以降、諸状況は正常化に戻りつつあり、10月末、3月とトルコ側の招聘によりイスタンブール・アンカラに赴くことができたものの、当初の研究実施計画の遅れを完全に取り戻すことはできなかった。

それでも、前年度までに発掘・収集した史料の調査、戦前期日本で反英活動を展開した在日イスラーム教徒であるバラカトゥッラー (Brakatullah) の活動分析に成果をまとめて日本オリエント学会で口頭発表を行い、さらにイスタンブールで発見した戦前期に神戸で活動していたタタル系トルコ人のタタル語逐次刊行物を資料集として刊行、上智大学アジア文化研究所より研究叢書の1冊として英語図書を上梓した。また主にトルコ及びタタル系トルコとの日本との関係について日本国内逐次刊行物の諸史料をデータベース化して3冊の資料集として刊行した

(4)平成 29 年度

当初計画を1年間延長しながら最終年度となった平成 29 年度は、本研究の総括を行いながら、その成果を広く発信・公開することに専念した。トルコの政情が安定し、同国の研究機関より招聘を受けながら、年度内に4回トルコ、1回フランスに赴き、対日行動の点で在日イスラーム教徒の中心人物であったアブデュルレシト・イブラヒム (Abdürreşit İbrahim) について本研究で発見した日本語史料に基づく報告など本研究の成果の口頭発表を行い、一部の補完的資料調査を行って、データベースの充実を図った。また国内においては早稲田大学イスラーム地域研究機構と共同して、トルコ共和国首相府国立文書館総局との間に関連文書史料の共同研究を行い、早稲田大学においてその成果を展示し、さらにその展示史料を研究代表者の本務校たる東洋大学から史料集をトルコ語・日本語併記の図書として刊行し、国内外主要研究機関・研究者に配布して、成果公開を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

- ① Nobuo MISAWA, “The Crisis between Greece and Japan Immediately after WWI: The Japanese Policy to Advance to the Mediterranean World”, *Mediterranean World*, No.23, 査読無, 2017, 123-134
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/28551>
- ② 三沢伸生, 20世紀前半のイスタンブールにおける日本軍部の活動, 東洋大学社会学部紀要, 53巻1号, 査読無, 2015, 21-34.
https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=8477&item_no=1&page_id=13&block_id=17
- ③ Nobuo MISAWA, “Shintoisme et Islam au Japon de l’entre-deux-guerres: Comment est-ce que des japonais en sont-ils venus à croire en l’Islam?”, *Mediterranean World*, No.22, 査読無, 2015, 43-64.
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/28557>
- ④ Nobuo MISAWA, “I.Dünya Savaşı'ndan Sonraki Türkiye-Japonya İlişkileri”, *XVI. Türk Tarih Kongresi (20-24 Eylül 2010, Ankara) Kongreye Sunulan Bildiriler*, Vol.5, Ankara : Türk Tarih Kurumu, 2015, 121-127. ISBN:978975162982

〔学会発表〕(計 8 件)

- ① Nobuo MISAWA, “I.Dünya Savaşı ile başlayan Türk-Japon İlişkileri”, *Birinci Dünya Savaşı'nın Hukuki ve Tarihi Yönler: Uluslararası Sempozyumu (Alman-Fransız pencesi)*, (Istanbul) , Türk Tarih Kurumu, 招聘有, 2017年.
- ② Nobuo MISAWA, “Japon Arsiv Kaynaklarında Osmanlı Coğrafyası Uzerine Bilgiler”, *2.Uluslararası Osmanlı Coğrafya Arsiv Kongresi (Istanbul)*, Tapu ve Kadastro Müdürlüğü, 招聘有, 2017年.
- ③ Nobuo MISAWA, “Yeni Kaynaklara göre Abdürreşit İbrahim'in Japonya'daki Hayatı”, *IV. Uluslararası Abdürreşit İbrahim Sempozyumu*, (Ankara), Ankara Üniversitesi, 招聘有, 2017年.
- ④ 三沢伸生 「戦前・戦中期の日本にとってのムスリム：共闘と打算」シンポジウム 協調と融和のイスラーム, 上智大学イスラーム研究センター, 招聘有, 2016年.
- ⑤ Nobuo MISAWA, "The crisis between Greece and Japan immediately after WWI : Heimeimaru Incident (1921) and after", *WORKSHOP : “Crises and Networks in the*

Mediterranean World II” (Corfu, GREECE, Corfu University, 招聘無 2016 年.

- ⑥ 三沢伸生 「「在日イスラーム教徒の対日活動の拠点：バラカトゥッラーの影響」日本オリエント学会第 58 回大会, 日本オリエント学会、招聘無, 2016 年.
- ⑦ Nobuo MISAWA, "Japonya'daki Abdürreşid İbrahim'in İzleri: Yeni bulunmuş olan Kaynaklar", III. Uluslararası Abdürreşid İbrahim Sempozyumu: Geçmişten Günümüze Rusya Müslümanları ve Matbuat Hareketleri (Kazan, RUSSIA), Yunus Emre Kazan, 招聘有, 2015 年.
- ⑧ Nobuo MISAWA, "The Japanese Emergence in the Mediterranean Sea in 1921: How did the network of the Allied Powers react to the crisis", *Workshop "Crises and Networks in the Mediterranean World"* (Corfu, GREECE), l'Institut Universitaire de la Recherche Scientifique-Rabat, 招聘無, 2014 年.

〔図書〕 (計 6 件)

- ① Kiyohiko HASEBE, Nobuo MISAWA, Sinan LEVENT (eds.), Toyo University, *Osmanlı İmparatorluğu ve Japonya / オスマン帝国と日本*, 2018, 99p. (うち 5-92)
ISBN: 9784904279090
- ② Nobuo MISAWA, Sophia University, *Verification for the Achievements of a Japanese Merchant in Istanbul*, 2017, 58p.
- ③ Nobuo MISAWA (ed.), Toyo University, *Bulletin (Kobe İdil-Ural Türk-Tatar Cemaati)*, 2017, 97p.
ISBN: 9784904279069
- ④ 三沢伸生, 東洋大学 (三沢伸生), 大阪刊行公的逐次刊行物所収トルコ関係記事 (1895-1945 年), 2017 年, 41p.
ISBN: 9784903878171
- ⑤ 三沢伸生, 東洋大学 (三沢伸生), 外務省刊行逐次刊行物所収トルコ関係記事 (1920-1940 年), 2017 年, 41p.
ISBN: 9784903878164
- ⑥ 三沢伸生, 東洋大学 (三沢伸生), *イスタンブール日本商品館関係資料集*, 2014 年, 50p.
ISBN: 9784903878140

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ

三沢伸生研究室 NM-LABO
<http://middleeast-asia.sakura.ne.jp/wp/misawa/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
三沢 伸生 (MISAWA, Nobuo)
東洋大学・社会学部社会文化システム学
科・教授
研究者番号：80328640

(2) 研究分担者 (0)

(3) 連携研究者 (0)

(4) 研究協力者

メルトハン・デユンダル (Ali Merthan DÜNDAR)

アンカラ大学・言語歴史地理学部・教授
(※海外の研究協力者のため研究者番号無)